

サバイバルチャレンジ

～防災力アップ～

サバイバルチャレンジは災害時に役立つ知識や技術を、体験等を通して学んでいくプログラムです。



対象	実施時期	定員	所要時間
4年生以上	3月春休み～11月末	10～90人	2時間～3時間 (準備、ふりかえりを含む)
可能な活動場所			
木の広場、せせらぎ広場、第キャンプファイヤー場、避難所など			
利用者持ち物		プラザ貸し出し備品	
【児童】 筆記具、飲み水、軍手、帽子、解答用紙（解答用紙：ホームページより印刷可） 【指導者】 新聞紙（1人×見開き4分の1枚）		【共通】 各有人ポイント解説ファイル、ポリ袋(人数分) ペットボトル(2ℓ)×3、毛布、丸太、 カラーコーン、時計またはストップウォッチ 【晴天】 マッチ、新聞紙(火おこし用)、鉄板、ペグ、麻紐、 消火用バケツ、火ばさみ、灰運び用一輪車、 皮手袋、消火器、貯水用バケツ ※バケツはせせらぎ広場の物を使用 【雨天】 ロープ（パラコード オレンジ5本・緑4本）	

ねらい

- ・災害時に役立つ技術の体験等を通して、防災への関心や意識を高める。また、身近なものを利用し、災害時に役立つ道具作りのスキルを身に付ける。
- ・仲間と協力して課題を解決しながら活動する楽しさを知る。

実施の流れ

準備（1グループ6人程度）（30分程度）

- ① 当所職員と団体指導者による打合せ（ルールの確認、配置の決定、指導方法の伝達）
- ② 各ゲーム備品の設置

導入（10分程度）

- ① 動機づけ（上記「ねらい」参照）
- ② グループごとに筆記用具・時計・地図・解答用紙を配布
- ③ ルールの説明（時間、場所、地図）
- ④ 安全上の注意（下記「留意点」参照）

片付け

- ① 最後のチャレンジが終了したら、各ゲーム備品を集合場所に移動する。

答え合わせ（15分程度）

- ① 得点を集計する。
- ② 無人ポイントの答えについてパネルを使って解説をする。

まとめ（5分）

- ① ふりかえり

以降は、各団体で進行

実施（2時間程度）

- ① グループごとに地図を見て、無人または有人ポイントに移動する。
- ② 【無人ポイント】ポストは10か所。ポストに表示してある課題を解く。
- ③ 【有人ポイント】ポイントは5ヶ所。指導者の指示に従い課題にチャレンジし、課題をクリアしたら解答用紙に指導者のサインをもらう。
- ④ 課題をクリアできなかった場合、他のポイントに移動します。同一ゲームへの連続チャレンジは不可。
- ⑤ 全員がそろってゴールする。

有人ポイント一覧（晴天時版）

- ① 火つけ体験（制限時間内に火をつけ、麻紐を焼き切る）
（雨天時）ロープワーク※（ロープワークでロープを延長する）
- ② バケツリレー（川から汲んだ水をバケツリレーで運び、貯水用バケツを満水にする）
- ③ 新聞紙でコップ作り（新聞紙でコップを作り、実際に試してみる）
- ④ 救急救命（倒れている人がいると想定し、ペットボトルを使って、胸骨圧迫を体験）
- ⑤ 毛布担架体験（毛布の上に丸太を乗せ、指定された距離を運ぶ）

留意点

- ① 9-1,9-2は必ず9-1から回る。
- ② 雨天時は火おこし体験をロープワークに変更する。
- ③ 自然保護・危険防止のため、遊歩道以外には入らないようにする。
- ④ 転倒の恐れがあるため、走らないようにする。
- ⑤ 活動範囲を確認する。（「これより先オリエンテーリングのポストはありません」看板より先に行かない。県道に出ない。）
- ⑥ メンバーの体力差を考えながら、班全員でまとまって行動する。
- ⑦ 緊急時には近くの団体指導者に連絡する。（団体指導者の配置を説明しておく。）
- ⑧ 火おこしを実施する団体は、火傷や怪我に注意する。
- ⑨ バケツリレーでは、バランスを崩して転倒、川に落ちてしまう危険性があるため、団体指導者は参加者の安全確保を第一に考え、事故を未然に防げるような位置に立って見守る。
- ⑩ 防災教育が目的のため、全部のポイントを回るようにする。
- ⑪ ポストが倒れていたり、破損していた場合は事務室に連絡する。